



# さく風



【学校教育目標】 自ら学ぶ意欲と 豊かな創造力をもち たくましく生きる

## “ウェルビーイングについて”～非認知能力を育てる～

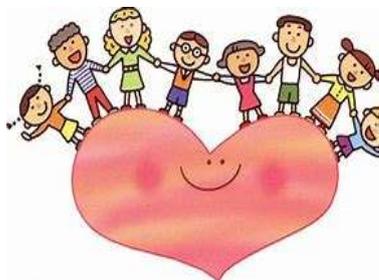
校長 上野 精嗣

素敵なニュースが届きました。本校の奥平先生に、待望の第二子「瑛和（えいと）」くんが誕生しました。幸せいっぱいの奥平先生を見ていると、私も娘が生まれた時のことを思い出し、幸せな気持ちになりました。そして、本校の生徒一人一人に、誕生の際の「幸せのドラマ」があったことが想起され、お預かりしているかけがえない大切な命を健やかに育てる学校の責任の重さを実感したところです。



我が家は高校2年生の娘が一人です。結婚してから10年、37歳で授かった子だからでしょうか、可愛くてしょうがありません。生まれた日から今日まで、毎日可愛くなっているように思います。あと1年半もすれば家から巣立っていくことになることを寂しく思うのですが、反面、早く素晴らしい伴侶を見つけて、親がいなくとも幸せに生活できる温かい家庭を築いてほしいとも思います。とにかく子どもには「幸せになって欲しい!」というのが親の共通した願いなのではないでしょうか？

では、「幸せ」って何なのでしょう？ こればかりは、人の数だけ答えがあるでしょう。しかし、今「**ウェルビーイング**」という言葉をよく聞くようになりましたが、これは、「肉



体的、精神的、社会的に良好な状態のこと。単に病気がないだけでなく、生活全般の幸福感や満足感が含まれる」ということ。要するに、バランスの取れた幸せな生活のことで、多くの人が考える「幸せ」に当てはまるのではないのでしょうか。

では、これからの予測困難な時代を生き抜く子どもたちがウェルビーイングな生活を送るために必要な力とは何でしょうか？

文部科学省が（いや、世界が）注目しているのが「非認知能力」です。何だか難しく聞こえるかもしれませんが、簡単に説明しますと、計算力や語学力といった学力テストなどで数値化して測れる能力が「認知能力」。これに対し、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力のことを「非認知能力」と呼びます。

広く知られる契機となったのは、2000年のノーベル経済学賞を受賞した米国のジェームズ・ヘックマン氏の研究結果です。幼児期に非認知能力を高める教育をしたグループとそうではないグループを追跡調査したところ、非認知能力が高いグループでは知能指数（IQ）や収入が高く、犯罪率も低いなど安定した社会生活を送れていることが示されたのです。子どもたちが社会経済的に成功をおさめ、ウェルビーイングな生き方につなげるためには、学力やIQを伸ばすことよりも「目標達成を諦めない力」や「自制心」といった非認知能力を育成することが重要であると述べています。



OECD（経済協力開発機構）による3つの要素	文部科学省3つの観点
①目標の達成：忍耐力・自己抑制・目標への情熱 ②他者との協働：社交性・敬意・思いやり ③情動の制御：自尊心・楽観性・自信	①自分の目標を目指して粘り強く取り組む ②そのためにやり方を調整し、工夫する ③友達と同じ目標に向けて協力し合う

## ●非認知能力を育てる「探究学習」の実践

文部科学省は、子どもたちの非認知能力の育成のため、子どもが自分の学習活動に責任をもち課題の解決を図ったり、他者と協働し学び合うことで考え方を広げていったりする「主体的・対話的な深い学び」の視点を取り入れた現行の学習指導要領を示しました。その中でも特に「探究学習」は非認知能力の育成に有効であるとされている学習方法の一つです。探究学習は子どもたち自身で目標を設定し、ときに周囲の人と協働しながら問題の解決にあたり目標を達成する学習方法です。探究学習によって目標に向かって努力する力や忍耐力、コミュニケーション力、感情のコントロール力といった非認知能力が育まれると同時に、自尊心や自信を高めることにもつながります。子どものウェルビーイングが注目されている昨今、非認知能力に重点を置いた教育はさらに重視されていくことでしょう。



## ●鹿追中学校では

これらのことを踏まえ、本校（鹿追町）では、旧態依然としたテストの点数を上げるための詰め込み教育ではなく、真の意味でこれからの世の中で生き抜くための力を育成することを目的とした、文部科学省の示す学習指導要領の理念に近づくことができるよう、ICT等を最大限に活用しながら国際バカロレアの手法を取り入れて「探究的な学び」を進めています。内容等につきましては、幸せいっぱい IBCo.奥平先生が作成した通信をご覧ください。ただそれだけではと思いますが、IBの目指す10の学習者像やATLスキルはまさに「非認知能力」を高めるにうってつけだと理解していただけるかと思います。

ここで注意していただきたいのは、決して「テストの点数が悪くてもよい」と言っているわけではありませんし、点数が取れるにこしたことはありません。ですが、「探究学習」は頭を使って考える時間が長くなる分、ドリルや暗記の時間などは自宅学習等での時間を確保する必要があります。学校でも指導はしておりますが、ぜひご家庭でもお子様の計画的・継続的な学習のサポートをお願いいたします。



最新の情報は [こちら](https://shikaoui.ed.jp/)（鹿追町幼小中高一貫教育サイト）

または <https://shikaoui.ed.jp/> または QRコードから

※IB通信のバックナンバーをご覧ください。

※町内各校の行事等の様子もご覧ください。



# 鹿中生の活躍

## ～中体連大会等から～

### ○第18回花の絵コンテスト

アートロード商店街賞 平山 いく

### ○全十勝秋季大会(10/13～)

柔道

個人の部

伊藤 祐和 -81kg 第3位  
 東野 大翔 -55kg 準優勝  
 中尾 嘉月 -50kg 1回戦敗退

団体の部(第3位)

鹿追中 1-1 (内容あり) 西山道場B  
 鹿追中 0-3 芽室中A

バレーボール(第3位)

鹿追・芽室西中 2-0 帯西陵中  
 鹿追・芽室西中 2-0 足寄・本別中  
 鹿追・芽室西中 2-0 土幌・共栄・駒場中  
 鹿追・芽室西中 0-2 下音更中

男子バスケットボール

鹿追町拠点校 棄権(不戦敗) 帯南町中

### ○インドア1次予選会(ソフトテニス・10/12)

湯浅・中村澁組 2回戦敗退  
 穴戸・鈴木組 2回戦敗退  
 木原・杉山組 1回戦敗退  
 清實・杉山組(OP) 1回戦敗退

### ○1年生王座大会予選会(ソフトテニス・10/20)

穴戸・鈴木組 ベスト8  
 早川・中村澁組 ベスト16  
 杉山・國枝組 2回戦敗退  
 山本・清實組 2回戦敗退  
 木原・村瀬(帯五中)組 2回戦敗退

### ○吹奏楽部定期演奏会(10/20)

町民ホールにて、地域・保護者のみなさまの多くのご来場をいただき、開催できました。ありがとうございました。



### ○地域安全標語

最優秀賞 高橋希乃花  
 「見守る目 増えて安心 笑顔咲く」  
 優秀賞 那賀島鈴乃・鈴木 康太

### ○環境美化標語

最優秀賞 山本 結菜  
 「ごみ拾い 笑顔も拾う 町きれい」  
 優秀賞 中野 隼・下山 来夢

# 文化祭写真展



実行委員企画で行われた真剣勝負(?)の1コマ



ステージ委員として熱演をふるう名優たち



会場に響いた3年生の合唱「僕のこと」



ダンスとともに会場を盛り上げた吹奏楽部

## 11月の行事予定

- 2日 バレーボール第2次キャンプ予選  
U-15フットサル十勝地区予選
- 6日 定例専門委員会
- 7日 学力テスト（3年・総合C）
- 8日 進路説明会（16:00）
- 9日～十勝子ども大会（～10日）
- 10日 第2回英語検定二次試験日
- 13日 移動図書（13:10～）
- 15日 秋の二計測（身長・体重）
- 16日 全十勝シングルス大会（ソフトテニス）
- 16日～全十勝1年生大会（バスケットボール）
- 18日～三者面談（3年・～27日）
- 19日 全十勝秋季大会（バレーボール・～20日）  
1年生王座大会予選会（ソフトテニス）
- 21日 Community Project（CP）発表会（3年・5～6校時）
- 23日 全十勝インドア大会（ソフトテニス）
- 27日 移動図書（13:10～）
- 29日 鹿追町幼小中高一貫教育研究大会
- 30日～全十勝中学校スピードスケート選手権大会  
（～12月1日）

※年間行事予定表とあわせてご確認下さい。

進路選択の重要な資料となる  
3回の学力テストの最終回。  
今できる最大限の努力の成果を  
出し切ることに挑戦を！

3年生の保護者を対象に、  
今後の手続き方法や日程など、  
進路に関する情報をご説明します。  
お忙しい中ですが、ご参加をお願いします！

進路希望の最終確認の場です。  
進路説明会での情報等を踏まえ  
ここまでにご家庭内での  
ご相談を済ませておいて下さい。

町内各校の教職員が  
一堂に会し（今年度は瓜幕中）  
授業の様子や日頃の学習の成果を  
交流する1日となります。  
後日改めてご案内をしますが、  
当日は午前授業・給食を摂った後  
下校となる予定です。

国際バカロレアにおける  
MYP（ミドルイヤーズ  
プログラム・概ね中学生  
段階）の活動の1つ。

## CP (Community Project) よい



10月18・21日に、3年生の2グループが、「CP（Community Project＝自分を取り巻く様々なコミュニティが抱える課題をリサーチし、その解決のために自分でできるアクションを考え、実行するという活動）」の一環で、然別湖を訪れました。特定外来生物に指定されている、ウチダザリガニの駆除活動の見学・取材のためです。お世話になった関係者の皆様に、感謝申し上げます。ありがとうございます。